

「景気動向に関するアンケート調査」報告書

令和8年 9 月

【調査趣旨】

神栖市商工会会員事業所の現状把握および今後の支援策について検討することを目的とする。

【調査概要】

調査時期:2026 年 4 月～6 月

調査対象:商工会会員事業所等

調査方法:窓口・FAX・Web アンケート

回答数:75 件

【今回調査の業種別 DI】(令和 8 年 4～6 月を令和 8 年 1～3 月と比較)

単位:%

項目\業種	全業種	製造業	小売業	建設業	卸売業	サービス業
3. 景況感	△ 22.7	△ 75.0	△ 20.0	△ 19.0	△ 50.0	△ 15.4
4. 売 上	△ 16.0	△ 50.0	△ 20.0	△ 9.5	△ 25.0	△ 11.5
5. 仕入(原材料)価格	84.0	100.0	85.0	76.2	100.0	84.6
6. 利 益	△ 40.0	△ 75.0	△ 45.0	△ 33.3	△ 50.0	△ 34.6
7. 資金繰り	△ 28.0	△ 75.0	△ 30.0	△ 19.0	△ 75.0	△ 19.2
8. 3 ヶ月先の見通し	△ 36.0	△ 50.0	△ 30.0	△ 28.6	△ 75.0	△ 38.5

<DI とは？>

DIとは、「良い」と回答した企業の割合 - 「悪い」と回答した企業の割合を算出したもので、算出した DI の数値は大きい(プラスになる)ほど景気が良くなっていると判断されます。(※仕入価格以外)

※仕入価格の DI 値は、マイナスとなる事が理想だが、プラスになっていても価格転嫁が適正に行われ、利益が増加していれば問題ないと考えられます。

【例】

売上 DI の算出方法:集計結果 ①上昇した 16.9% ②変化なし 45. 8% ③減少した 37.3% ⇒
① - ③(16.9-37.3)=△20.4 となります。

仕入 DI の算出方法:集計結果 ①上昇した 71.1% ②変化なし 25.3% ③減少した 3.6% ⇒
① - ③(71.1-3.6)=67.5 となります。

【アンケート結果(全業種)の概要】 ※前ページの集計に対するコメント

<景況感> 全業種 DI $\Delta 22.7$ で、前回よりは改善したものの依然悪化傾向となる。製造業 $\Delta 75.0$ と卸売業 $\Delta 50.0$ の落ち込みが特に大きく、サービス業 $\Delta 15.4$ 、建設業 $\Delta 19.0$ 、小売業 $\Delta 20.0$ は相対的に悪化幅が小さい結果となった。

<売上> 全業種 DI $\Delta 16.0$ で、売上についても前回よりは改善したが悪化傾向。製造業が $\Delta 50.0$ と最も厳しく、卸売業も $\Delta 25.0$ 、小売業も $\Delta 20.0$ 。一方、建設業は $\Delta 9.5$ 、サービス業は $\Delta 11.5$ で、比較的影響が限定的となった。

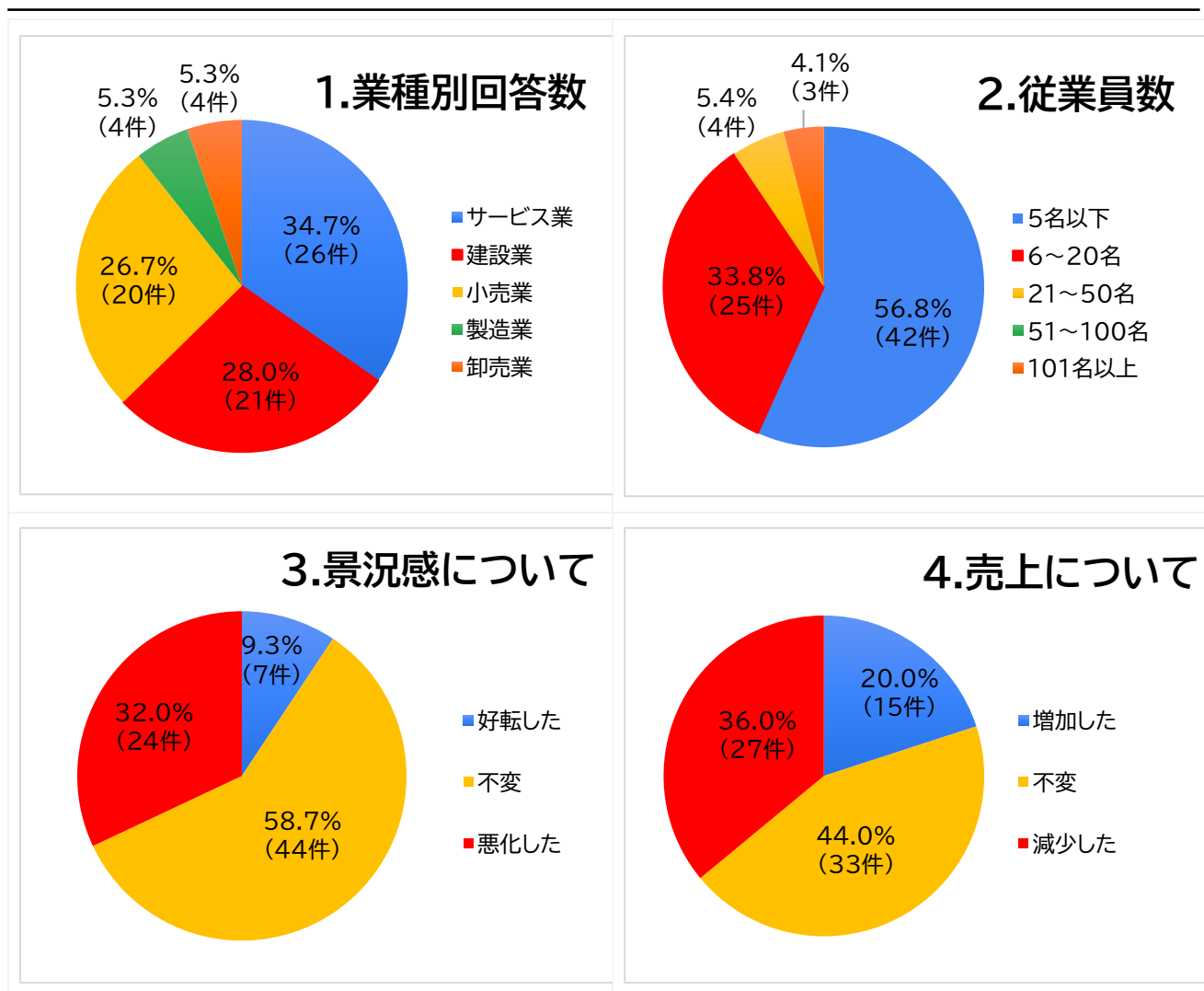
<仕入(原材料)価格> 全業種 DI 84.0 と非常に高く、仕入価格の上昇が止まらない状況。製造業・卸売業はともに 100.0 で、価格上昇を感じる企業のみ。小売業 85.0 、サービス業 84.6 、建設業 76.2 も高水準。

<利益> 全業種 DI $\Delta 40.0$ で、利益面は売上以上に厳しい状況。製造業 $\Delta 75.0$ 、卸売業 $\Delta 50.0$ 、小売業は $\Delta 45.0$ と大幅な悪化を示す。建設業 $\Delta 33.3$ とサービス業 $\Delta 34.6$ も、利益減少の傾向が明確である。

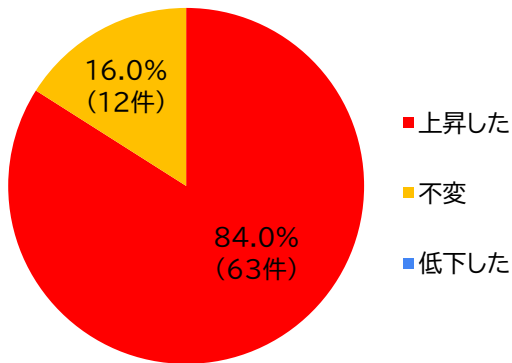
<資金繰り> 全業種 DI $\Delta 28.0$ で、資金繰りも悪化傾向。製造業と卸売業はともに $\Delta 75.0$ と突出して厳しく、資金負担の大きさがうかがえる。小売業は $\Delta 30.0$ 、建設業は $\Delta 19.0$ 、サービス業は $\Delta 19.2$ で、他業種よりは低い悪化幅となる。

<3ヶ月後の見通し> 全業種 DI $\Delta 36.0$ で、依然として先行きへの不安が高い。卸売業は $\Delta 75.0$ 、製造業は $\Delta 50.0$ と悲観的な見通しが目立つ。サービス業も $\Delta 38.5$ 、小売業 $\Delta 30.0$ 、建設業 $\Delta 28.6$ で、全業種が悪化の予兆を感じている。

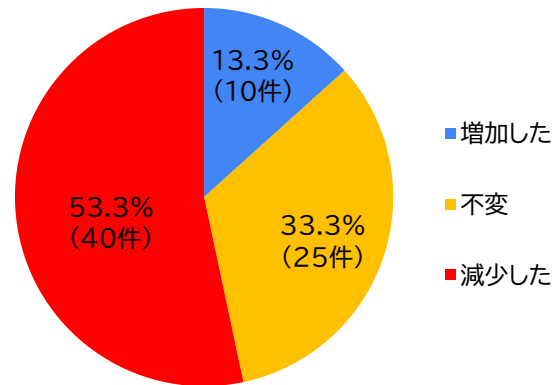
【アンケート結果(全業種)の詳細】



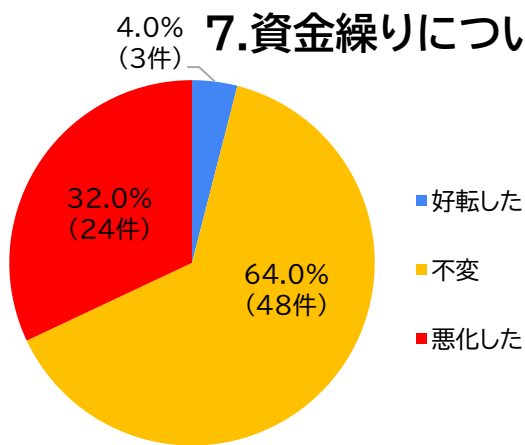
5.仕入価格について



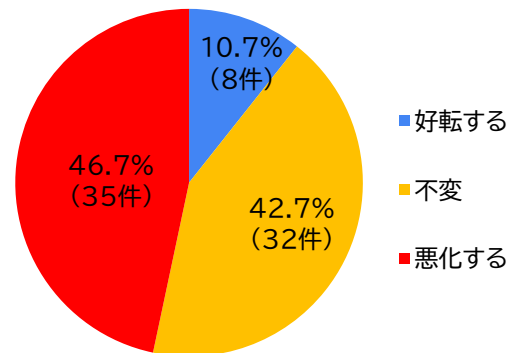
6.利益について



7.資金繰りについて



8.業況の見通しについて

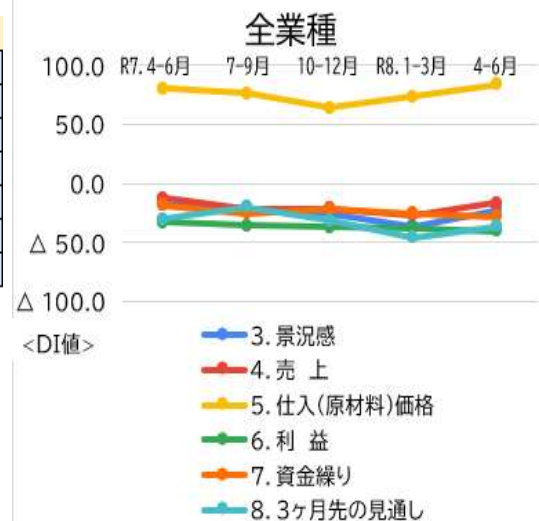


【前回調査からの推移】

[全体の概要]

項目\業種・期間	全業種				
	R7.4-6月	7-9月	10-12月	R8.1-3月	4-6月
3. 景況感	△ 18.0	△ 21.1	△ 25.0	△ 36.0	△ 22.7
4. 売上	△ 12.0	△ 21.1	△ 21.4	△ 26.7	△ 16.0
5. 仕入(原材料)価格	80.7	76.1	64.3	73.3	84.0
6. 利益	△ 32.5	△ 35.2	△ 36.4	△ 37.3	△ 40.0
7. 資金繰り	△ 18.1	△ 25.4	△ 22.1	△ 25.3	△ 28.0
8. 3ヶ月先の見通し	△ 30.2	△ 19.7	△ 31.4	△ 45.3	△ 36.0

前回調査時に悪化した景況感・売上・利益・資金繰りが、今回いずれも改善した。特に景況感は 13.3 ポイント、売上は 10.7 ポイント回復した。一方で仕入価格 DI は 73.3 から 84.0 へ再上昇しており、コスト高が収益回復の重荷となる。先行き見通しも△36.0 へ改善したが、依然慎重である。



[製造業の概要]

項目\業種・期間	製造業				
	R7.4-6月	7-9月	10-12月	R8.1-3月	4-6月
3. 景況感	0.0	△ 33.4	△ 37.5	33.3	△ 75.0
4. 売 上	△ 14.3	△ 33.4	△ 33.4	33.3	△ 50.0
5. 仕入(原材料)価格	71.4	100.0	25.0	33.3	100.0
6. 利 益	0.0	△ 33.4	△ 25.0	33.3	△ 75.0
7. 資金繰り	0.0	△ 66.7	△ 25.0	33.3	△ 75.0
8. 3ヶ月先の見通し	0.0	△ 33.3	△ 12.5	△ 33.3	△ 50.0

前回景況感、売上、利益、資金繰りが 33.3 まで改善していたが、今回は大幅に悪化した。景況感・利益・資金繰りはいずれも△75.0、売上も△50.0 となり、急速な失速がうかがえる。仕入価格 DI は 33.3 から 100.0 へ急上昇し、原材料高が収益・資金繰りを圧迫している。先行き見通しも△50.0 と慎重。



[小売業の概要]

項目\業種・期間	小売業				
	R7.4-6月	7-9月	10-12月	R8.1-3月	4-6月
3. 景況感	△ 15.8	0.0	△ 20.0	△ 26.7	△ 20.0
4. 売 上	△ 10.5	△ 27.2	5.0	△ 20.0	△ 20.0
5. 仕入(原材料)価格	84.2	63.6	80.0	60.0	85.0
6. 利 益	△ 31.6	△ 27.3	△ 35.0	△ 26.7	△ 45.0
7. 資金繰り	△ 26.3	0.0	△ 15.0	△ 13.3	△ 30.0
8. 3ヶ月先の見通し	△ 42.1	△ 45.5	△ 35.0	△ 33.3	△ 30.0

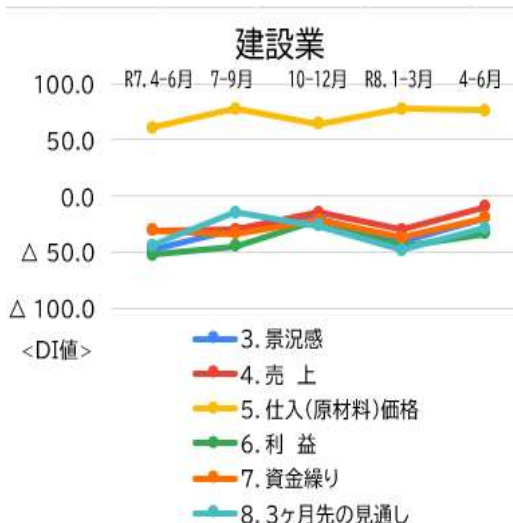
景況感が 6.7 ポイント、3 か月先の見通しも 3.3 ポイントとやや改善。一方、売上は前期の△40.0 ポイント急落し、利益も△18.3 ポイント、資金繰りも△16.7 ポイント悪化。仕入価格 DI は 25.0 ポイント上昇しており、コスト高と売上減少が収益を強く圧迫している。



[建設業の概要]

項目\業種・期間	建設業				
	R7.4-6月	7-9月	10-12月	R8.1-3月	4-6月
3. 景況感	△ 47.8	△ 29.6	△ 19.0	△ 40.7	△ 19.0
4. 売 上	△ 30.5	△ 29.6	△ 14.3	△ 29.6	△ 9.5
5. 仕入(原材料)価格	60.9	77.8	64.2	77.8	76.2
6. 利 益	△ 52.2	△ 44.5	△ 21.5	△ 44.4	△ 33.3
7. 資金繰り	△ 30.4	△ 33.3	△ 21.4	△ 37.0	△ 19.0
8. 3ヶ月先の見通し	△ 43.5	△ 14.8	△ 26.2	△ 48.1	△ 28.6

前回大きく悪化した各 DI が総じて改善した。景況感は 21.7 ポイント、売上 20.1 ポイント、利益 11.1 ポイント、資金繰り 18.0 ポイント回復している。3 か月先の見通しも 19.5 ポイント回復し持ち直した。仕入価格 DI は 1.6 ポイント低下したものの高水準であり、コスト負担は引き続き課題である。



[卸売業の概要]

項目\業種・期間	卸売業				
	R7.4-6月	7-9月	10-12月	R8.1-3月	4-6月
3. 景況感	0.0	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0
4. 売 上	100.0	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
5. 仕入(原材料)価格	100.0	100.0	25.0	100.0	100.0
6. 利 益	100.0	△ 50.0	△ 75.0	△ 50.0	△ 50.0
7. 資金繰り	0.0	0.0	0.0	△ 50.0	△ 75.0
8. 3ヶ月先の見通し	0.0	0.0	25.0	△ 50.0	△ 75.0

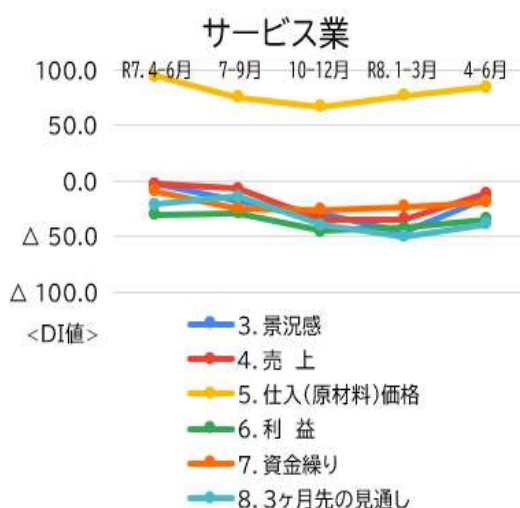
仕入価格 DI が 100.0 で継続するなか、景況感が 25.0 ポイント悪化。売上と利益が前回の厳しい水準から改善がみられない。資金繰り、3 か月先の見通しも 25.0 ポイント悪化しており、コスト高を背景に先行き不安が一段と強まっている。



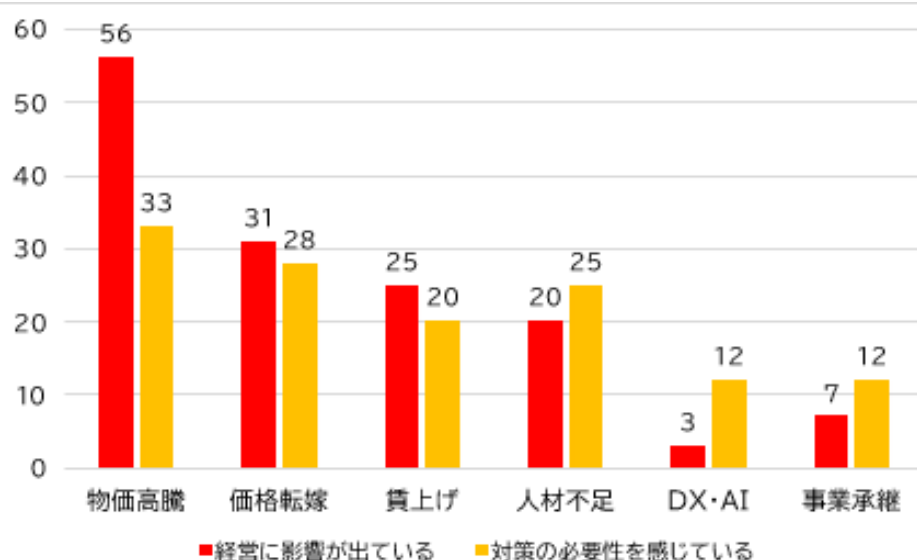
[サービス業の概要]

項目\業種・期間	サービス業				
	R7.4-6月	7-9月	10-12月	R8.1-3月	4-6月
3. 景況感	△ 3.0	△ 17.9	△ 28.8	△ 46.2	△ 15.4
4. 売 上	△ 3.1	△ 7.1	△ 34.8	△ 34.6	△ 11.5
5. 仕入(原材料)価格	93.9	75.0	66.7	76.9	84.6
6. 利 益	△ 30.3	△ 28.6	△ 45.4	△ 42.3	△ 34.6
7. 資金繰り	△ 9.1	△ 25.0	△ 25.8	△ 23.1	△ 19.2
8. 3ヶ月先の見通し	△ 21.2	△ 14.2	△ 39.3	△ 50.0	△ 38.5

前回に悪化した景況感が 30.8 ポイント、売上が 23.1 ポイント回復と大きく改善した。利益、資金繰りもそれぞれ △34.6、△19.2 へ持ち直し、足元の経営環境には回復の動きがみられる。一方、仕入価格 DI は 7.7 ポイント上昇しており、コスト負担は拡大した。3 か月先の見通しも △38.5 へ改善したが、依然として慎重な見方が続く。



[経営への影響や対策の必要性について]



「物価高騰」が 56 件で突出し、最も深刻な課題となっている。原材料費、エネルギー費、物流費などの上昇を十分に価格転嫁できず、利益を圧迫している可能性が高い。実際に「価格転嫁」は 31 件、「賃上げ」は 25 件が影響ありと回答しており、コスト増への対応が収益・人件費の両面で負担となっている。

一方、人材不足は影響あり 20 件に対し対策の必要性 25 件と上回り、採用難や将来的な労働力確保への危機感がうかがえる。DX・AI、事業承継は現時点の影響は小さいものの、対策必要性は各 12 件であり、中長期の経営基盤強化に向けた課題として認識されている。

その他、経営に影響を及ぼしている要因や、お気づきの点やご意見ご要望について

- ・客の戻りを期待します
- ・配送業なので燃料費の影響が大きい
- ・未だに、取引先のバイヤーは無理な要求をしてくる
- ・物価高騰の影響あり、価格競争に勝たないと厳しい
- ・リフォーム需要の減少が予想され、工事内容の検討が必要
- ・仕入価格の高騰と賃金の引き上げで苦しい
- ・物価高騰にあわせて元請けと価格交渉をしなければいけないが、対応してくれない
- ・夏季の気温上昇の為に空調がないので営業が厳しい。日中は暑くて来客もかなり減少している。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

景気動向に関するアンケート調査結果(2026 年9月)
実施・編集 神栖市商工会
お問合せ TEL0299-92-5111